



共生社会システム学会ニュースレター

The Association for Kyosei Studies News letter

2017年2月20日発行 第15号

目 次

1. 2016年度大会（学会設立10周年記念大会）が開催されました。	1
2. 臨時理事会の報告	2
3. 学会設立10周年記念書籍について	4
4. 『共生社会システム研究』第12巻への投稿募集	4
5. 運営委員会事務局だより	5

1. 2016 年度大会（学会設立 10 周年記念大会）が開催されました。

2016年度大会（『学会設立10周年記念大会』）が、東京農工大学府中キャンパスにおいて以下の日程で開催されました。

・日時：2016年10月1日（土）・2日（日）

・スケジュール：

10月1日（土）

13：00 開会挨拶

13：10～14：20 記念講演 宮本憲一氏（大阪市立大学名誉教授、滋賀大学名誉教授）

14：30～17：00 「記念シンポジウム：共生社会をつくるー時代の閉塞を超えてー」

10月2日（日）

9：00～12：00 個別報告

13：00～13：30 総会

13：30～17：30 企画ワークショップ

本大会では、1日目に、学会設立10周年を記念して、宮本憲一氏（大阪市立大学名誉教授、滋賀大学名誉教授）に、「四日市公害・琵琶湖汚染・原発公害の教訓から共生社会の権利を問うー人格権から環境権へ」というタイトルにて記念講演をしていただきました。記念講演では、現代資本主義とその共同社会的条件がメルトダウンしかかっている状況を経済学はどのように考えているかと問いかげられ、そのうえで人権が環境問題でどのように扱われているかを論じられました。資本主義社会において、市民が共生しうる最低条件とは基本的人権が保障されていること、基本的人権の内容は市民社会の発展段階や地域（都市と農村）によって異なっていること、等が提示されました。

記念講演に引き続き、「記念シンポジウム：共生社会をつくるー時代の閉塞を超えて」が開催されました。シンポジウムは、本学会設立 10 周年を記念し発刊された2巻からなる書籍『共生社会Ⅰー共生社会とは何かー』『共生社会Ⅱー共生社会をつくるー』をベースに、書籍で展開された解題を兼ねつつ、さらに先へ議論を進めるために企画されました。主な解題は、20世紀末以来

の社会変動の中、リーマンショックや東日本大震災などの経験をふまえて定位された3つの課題である、「地域の再生」「農の再生」「グローバル化」に対する理論的かつ実践的な検討です。記念書籍の監修者である尾関周二会員、矢口芳生会員の座長のもと、5名の編集責任者を代表して亀山純生会員、古沢広祐会員、岡野一郎会員の3名から洞察に富む報告がなされました。

亀山報告では、共生社会理念のリアティの理論的・実践的ポイントを整理した上で、共生社会理念の学際的深化の意義と課題への論及がなされ、古沢報告と岡野報告は、共生社会の実現に向けたより実践的な側面に注目したもので、各々、地域の再生・農の再生、グローバル化と共生の条件に関する内容でした。3名による報告後、フロアの数名の書籍執筆者から補足が加えられた後、参加者から積極的な質問があり、活発な議論が行われました。

2日目には、18本の個別報告と学会初の試みである「企画ワークショップ」が行われました。企画ワークショップでは、以下の5つのテーマで、若手会員を中心に活発な議論が行われました。

- ・「農山村の自然資源管理に向けて—ゾーニングの必要性・可能性・困難性」（主宰：日本獣医生命科学大学・桑原考史会員）
- ・「地域的な議論の場の創造に向けて—青森県下北地域の調査から考える」（主宰：東京農工大学・澤佳成会員）
- ・「震災・復興と地域のかち ～宮城県北部、登米・南三陸・北上地域を事例に（中間報告）～」（主宰：：國學院大學・古沢広祐会員）、
- ・「コミュニティ研究の先駆者たち—新渡戸稲造とその系譜—」（主宰：：茨城大学：増田敬祐会員）、
- ・「文化・自然・ジェンダー—自然との共生／他者との共生を文化的側面から捉える—」（主宰：東京農工大学・岡野一郎会員）

2日の13時から開催された総会では、2015年度事業報告、2015年度決算報告、2015年度決算の監査報告、2016年度事業計画、2016年度予算、2016年度役員体制の報告/承認という通常議案に加えて、本学会ロゴマークの決定を行いました。学会では、学会設立10周年記念事業の一環として学会ロゴマークの作成準備を進めてまいりましたが、複数の案から学会員の投票により、学会ロゴマークは以下に決定いたしました。投票頂いた会員の皆さまには感謝申し上げます。



共生社会システム学会
— The Association for Kyosei Studies —

2. 臨時理事会の報告

2016年度大会の2日目15時40分から、新役員体制のもと臨時理事会が開催されました。

新体制では会長と副会長3名は前期同様（留任）となりましたが、尾関会長の任期は本人の希望により、1年に限ることが確認されました。新役員体制（2016年10月2日～2018年8月）を次頁に示しました。

尾関会長から、昨今の社会情勢を鑑みると、本学会の社会的意義は益々高まっており、関係学会との連携も進めながら、学会の活動をさらに発信していくことが重要であり、そのためには、今後10年を見据え、学会の基盤をより強固にしていく必要であると述べられました。その具体的方策として、今回、学会の活動の活発化のために担当理事（総務、企画、編集）、会員拡大に向

けて地区担当理事（東日本地区、中部地区、西日本地区）を新たに設けられたことが確認されました。また、今後、検討すべき課題として、会員拡大のために地区ごとの研究会開催の企画、学会の会計基盤の強化のために会員区分・会費の見直し、等の意見が出されました。

	氏名	担当	所属
1	尾関 周二	会長	東京農工大学
2	木村 光伸	副会長	名古屋学院大学
3	古沢 広祐	副会長	國學院大学
4	矢口 芳生	副会長	福知山公立大学
5	千年 篤	運営委員長	東京農工大学
6	榎本弘行	運営副委員長	東京農工大学
7	岡野 一郎	編集委員長	東京農工大学
8	桑原 考史	編集副委員長	日本獣医生命科学大学
9	稲村 亮	総務担当理事	農林統計出版
10	北野 収	企画担当理事	獨協大学
11	榎平 龍宏	〃	名古屋経済大学
12	津谷 好人	編集担当理事	宇都宮大学
13	森 祐希子	〃	東京農工大学
14	武田 庄平	東日本地区担当理事	東京農工大学
15	片山 善博	中部地区担当理事	日本福祉大学
16	中尾 誠二	西日本地区担当理事	福知山公立大学
17	秋山 満	理事	宇都宮大学
18	朝岡 幸彦	〃	東京農工大学
19	新井 祥穂	〃	東京農工大学
20	荒木 和秋	〃	酪農学園大学
21	市原 あかね	〃	金沢大学
22	上野 吉一	〃	名古屋市東山動植物公園
23	オプヒュルス鹿島ライノルト	〃	上智大学
24	柏 雅之	〃	早稲田大学
25	亀山 純生	〃	東京農工大学
26	関（山村）陽子		長崎大学
27	竹村 牧男	〃	東洋大学
28	中川 光弘	〃	茨城大学
29	福田 恵	〃	広島大学
30	水野 邦彦	〃	北海学園大学
31	星 勉	監事	地域社会計画研究所
32	吉田 央	〃	東京農工大学

3. 学会設立 10 周年記念書籍について

先述の『学会設立10周年記念大会』「記念シンポジウム」に関する報告においても記載しましたが、学会設立10周年記念事業の一環として準備してまいりました記念書籍が発刊されました(2016年10月発行)。これまでの学会の議論の集大成ともいえる意欲作になりました。会員の皆さまにおかれましては、是非お買い求めください。

- ・上下2巻：上巻『共生社会Ⅰ—共生社会とは何か』(ISBN:978-4897323497) 3,500円(+税)
下巻『共生社会Ⅱ—共生社会をつくる』(ISBN:978-4897323503) 3,500円(+税)
- ・監修者：尾関周二、矢口芳生
- ・編集責任者：上巻=亀山純生、木村光伸、下巻=古沢広祐、津谷好人、岡野一郎

なお、会員割引があります。価格はⅠ、Ⅱ、いずれも3,000円(税込、送料サービス)です。お求めの際には、下記申込書に必要事項をご記入の上、農林統計出版(担当：稲村)まで、お申してください。FAX、E-mail、郵送、いずれでも結構です。書籍と一緒に請求書等をお送り致します。

お申込書(共生社会システム学会 会員専用)

『共生社会Ⅰ—共生社会とは何か』 _____ 冊
『共生社会Ⅱ—共生社会をつくる』 _____ 冊

お名前 _____

ご住所 〒 _____

連絡先 TEL _____ e-mail _____

備考 _____

お申込先 農林統計出版(担当：稲村) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-3-3 木下ビル4F TEL 03-3511-0058/FAX 03-3511-0059/e-mail: inamura@afsp.jp

4. 『共生社会システム研究』第12巻への投稿募集

『共生社会システム研究』第12巻への投稿原稿を募集しますので、ふるってご投稿下さい。締切日は10月2日(月)です。今年から、締切日が一ヶ月早くなりますのでご注意ください。締切日を超えた投稿については、原則、次巻(第13巻)掲載の原稿として取り扱いますので、あらかじめご承知おき下さい。

また、第12巻より、当学会ウェブサイトに掲載された原稿及び投稿票の書式見本ファイルをダ

ダウンロードして使用していただきます。このことも含め、投稿規程、執筆要領をよく読んで原稿を作成して下さい。

原稿の送り先：

〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16 東京農工大学工学部電気電子工学科

『共生社会システム研究』編集委員長 岡野一郎 E-mail: i-okano@cc.tuat.ac.jp

5. 運営委員会事務局だより

先にも書きました通り、学会のロゴが決定されました。共生という一見難しい概念が、親しみやすい図柄で表されており、良いデザインだと好評のようです。これに伴い、学会ホームページ (<http://kyosei-gakkai.jp/>) やこのニュースレターのデザインも変更されました。

去年は、本学会の設立 10 周年という節目の年であったため、これに伴う記念事業が数多く企画されました。そして多くの学会員の力でこれらの事業を成功裏に導くことができました。この場を借りまして関係各会員に感謝申し上げます。

設立 10 周年記念事業の一環として、会員拡大に積極的に取り組んできましたが、なかなか妙案はなく、拡大には結局は会員一人一人の誘いかけによるところが大きいのではないかと実感しています。会員各位におかれまして、身近に「共生」理念、共生社会の在り方について関心を持つ方がいらっしゃいましたら、積極的に学会にお誘いいただければ幸いです。入会申込書等はホームページよりダウンロード可能です。

なお 2017 年度大会は、2017 年 9 月 2・3 日（暫定）に名古屋学院大学で開催する予定です（大会実行委員長：木村光伸会員）。詳しい内容については、決定次第、本ニュースレターにてお知らせいたします。

皆様からのニュースレター原稿を募集しております。投稿は榎本(hirolaw@cc.tuat.ac.jp)までお送りください。ただし一つの原稿は最大でもページの半分に収まる程度の分量でお願いいたします。

会費納入のお願い

まだ 2015 年度会費を納入していない会員におかれましては、至急会費を納入していただきますようお願い申し上げます。会費は、一般会員 6,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員 20,000 円となっております。よろしくお願い申し上げます。

共生社会システム学会ニュースレター 第15号 2017年2月20日発行
編集・発行 共生社会システム学会運営委員会事務局
連絡先 〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8
東京農工大学農学研究院 千年篤研究室 気付
TEL: 042-367-5687 E-Mail: chitose@cc.tuat.ac.jp
郵便振替 00130-6-372850 (加入者名) 共生社会システム学会